

ウラニウムの滲劇

alice

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

鋼の錬金術師「シャンバラを征く者」の続編的な内容です。
みただけりやどうぞ。

目次

プロローグ

プロローグから新たな旅立ちへ | 1

プロローグ

プロローグ　新たな旅立ち

まずは、ウラニウム爆弾だね、兄さん！」

『まずは、』じゃなくて、旅の目的はそこだろうが。」

「えへへ、そうだった」

馬車に揺られながら会話を交わすエドとアル。

「お客さん、どこで降りますか？」

ふと、手綱を引いていた男が、二人の話を絶った。

ここはミュンヘン。ドイツの主要都市。

ナチ党員の蜂起の日に、シャンバラ錬金術世界に渡ったエドは、

錬金術の世界を滅ぼそうとしたエツカルトを倒す。

「門」を壊すために戻ってきたエドワードだったが、アルフォンスもついてきていた。

ハイデリヒの葬儀は直後に行われ、二人は静かにその場を後にしていた。

そんなドタバタがあったその日、すぐに旅に出た。

「とりあえず港まで頼むよ、おっちゃん。」

「はいよ。」

ぴしゃん！と心地良い音が響き、馬は駆け出した。

「兄さん、どこ行くの？」

「港って聞きゃわかるだろ。外国に行くんだ。」

「ええ!? ぼ、僕、大丈夫？」

初めての海外行きを突然言われ、戸惑いを隠せないアル。

「へーきへーき。以前俺が液体燃料ロケットの勉強をしていた時にいたところに行くんだ。」

知り合いもいるしな。」

「なるほどね・・・で？ ノープラン？」

エドを怪しむように見るアル。

「んなノープランとは人聞きの悪い。」

一呼吸おいて、語り始める。

「実はな、トランシルバニアで研究をしていた相方が、確かアメリカに渡ってつちまつて。」

そこに行けば会えると思うんだ。

それに、ロケットはすげえ強力な燃料を使う。爆弾があつてもおかしくはないだろ？」

そこまで話しおえると、

「ほら、あんちゃんたち、港だよ。」

「お！久々に来たなあ！」

「これが海？広い！」

思い思いに感想を述べ、

「んじゃ、早速・・・」

「うん！行こう！兄さん！」

「ああ、出発だ！」

「うわあ…ひろーい！」

アメリカ、ニューヨーク港。

あまりの広さに、アルは驚きを隠せず感嘆の声を上げる。

「全く・・・ひっさしぶりだな！」

どこか懐かしそうな眼差しをするエド。

「兄さん。で、その相方って、どこに居るの？」

「確かどっかの大学だったな。場所は覚えてるからついてこい。」

そう言ってスタスタ歩いていくエドの背を、アルは急いで追っていった。

○? 大学、正面玄関。

「すいませーん。燃料実験室のー」

「ついに嗅ぎまわりだしたな。
うっとおしい奴め。」

「じゃあ、シャンバラから持ってきたアレはあそこに移したほうがいいですね。」